

あ ア 愛 永

ナ タ サ カ ア な た さ か あ
 ニ チ シ キ イ に ち し き い
 ヌ ツ ス ク ウ む つ す く う
 ネ テ セ ケ エ ね て せ け え
 ノ ト ソ コ オ の と そ こ お

ABCDEFGHIJKLMNO
 PQRSTUVWXYZ
 abcdefghijkl
 mnopqrstuvwxyz
 0123456
 789.:;,*!?)

• 40 pt

可読性の良さは人に優しい

• 16 pt

漢字は象形文字から発達した文字と、それらを用いて論理的に組み合わせた文字とに大別することができます。

• 10 pt

モトヤ書体の開発は、1950年代から始まり現在に至っています。この間モトヤ書体は、鉛活字、タイプ活字、写植用文字盤、デジタルフォント（ビットマップフォント・アウトラインフォント）と様々な組版手段に対応し、その製品形態を変えてきました。しかし永年にわたる書体開発の歴史の中で、変わらないものが、「可読性の良さ」と「文字の美しさ」の追求です。

元々漢字も仮名も縦組用の文字であり、組版も長い間縦組が主流でした。そして多くの書体が、横組をあまり意識していないデザインであったため、横組が主流となり始めると大きな問題を抱えるようになりました。

• 12 pt

日本語の組版や可読性を語る時に、縦組と横組に触れないわけにはいきません。

• 14 pt

漢字と仮名の調和

• 32 pt

あ ア 愛 永

ナ タ サ カ ア な た さ か あ
 ニ チ シ キ イ に ち し き い
 ヌ ツ ス ク ウ ぬ つ す く う
 ネ テ セ ケ エ ね て せ け え
 ノ ト ソ コ オ の と そ こ お

ABCDEFGHIJKLMNO
 PQRSTUVWXYZ
 abcdefghijklm
 nopqrstuvwxyz0
 123456789.:;(*!?)

・ 40 pt

可読性の良さは人に優しい

・ 16 pt

漢字は象形文字から発達した文字と、それらを用いて論理的に組み合わせた文字とに大別することができます。

・ 10 pt

モトヤ書体の開発は、1950年代から始まり現在に至っています。この間モトヤ書体は、鉛活字、タイプ活字、写植用文字盤、デジタルフォント（ビットマップフォント・アウトラインフォント）と様々な組版手段に対応し、その製品形態を変えてきました。しかし永年にわたる書体開発の歴史の中で、変わらないものが、「可読性の良さ」と「文字の美しさ」の追求です。

元々漢字も仮名も縦組用の文字であり、組版も長い間縦組が主流でした。そして多くの書体が、横組をあまり意識していないデザインであったため、横組が主流となり始めると大きな問題を抱えるようになりました。

・ 12 pt

日本語の組版や可読性を語る時に、縦組と横組に触れないわけにはいきません。

・ 14 pt

漢字と仮名の調和

・ 32 pt

あア愛永

ナ タ サ カ ア な た さ か あ
 ニ チ シ キ イ に ち し き い
 ヌ ツ ス ク ウ ぬ つ す く う
 ネ テ セ ケ エ ね て せ け え
 ノ ト ソ コ オ の と そ こ お

ABCDEFGHIJKLMNOP
 QRSTUVWXYZabcdefg
 hijklmnopqrstuvwxyz012
 3456789.:;(*!?)

• 40 pt

可読性の良さは人に優しい

• 16 pt

漢字は象形文字から発達した文字と、それらを用いて論理的に組み合わせた文字とに大別することができます。

• 10 pt

モトヤ書体の開発は、1950年代から始まり現在に至っています。この間モトヤ書体は、鉛活字、タイプ活字、写植用文字盤、デジタルフォント（ビットマップフォント・アウトラインフォント）と様々な組版手段に対応し、その製品形態を変えてきました。しかし永年にわたる書体開発の歴史の中で、変わらないものが、「可読性の良さ」と「文字の美しさ」の追求です。

元々漢字も仮名も縦組用の文字であり、組版も長い間縦組が主流でした。そして多くの書体が、横組をあまり意識していないデザインであったため、横組が主流となり始めると大きな問題を抱えるようになりました。

日本語の組版や可読性を語る時に、縦組と横組に触れないわけにはいきません。

漢字と仮名の調和

あア愛永

ナ タ サ カ ア な た さ か あ
ニ チ シ キ イ に た し き い
ヌ ツ ス ク ウ む つ す く う
ネ テ セ ケ エ ね て セ ケ え
ノ ト ソ コ オ の と そ こ お

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz012
3456789.:;(*!?)

・ 40 pt

可読性の良さは人に優しい

・ 16 pt

漢字は象形文字から発達した文字と、それらを用いて論理的に組み合わせた文字とに大別することができます。

・ 10 pt

モトヤ書体の開発は、1950年代から始まり現在に至っています。この間モトヤ書体は、鉛活字、タイプ活字、写植用文字盤、デジタルフォント（ビットマップフォント・アウトラインフォント）と様々な組版手段に対応し、その製品形態を変えてきました。しかし永年にわたる書体開発の歴史の中で、変わらないものが、「可読性の良さ」と「文字の美しさ」の追求です。

・ 32 pt
漢字と仮名の調和
・ 14 pt
日本語の組版や可読性を語る時に、縦組と横組に触れないわけにはいきません。
・ 12 pt
元々漢字も仮名も縦組用の文字であり、組版も長い間縦組が主流でした。そして多くの書体が、横組をあまり意識していないデザインであったため、横組が主流となり始めると大きな問題を抱えるようになりました。

あア愛永

ナ タ サ カ ア な た さ か あ
 ニ チ シ キ イ に た し き い
 ヌ ツ ス ク ウ ん ち し く い
 ネ テ セ ケ エ ね て せ け え
 ノ ト ソ コ オ の と そ こ お

ABCDEFGHIJKLMNO
 PQRSTUVWXYZabcde
 fghijklmnopqrstuv
 wxyz0123456789.:,;(*!?)

・ 40 pt

可読性の良さは人に優しい

・ 16 pt

漢字は象形文字から発達した文字と、それらを用いて論理的に組み合わせた文字とに大別することができます。

・ 10 pt

モトヤ書体の開発は、1950年代から始まり現在に至っています。この間モトヤ書体は、鉛活字、タイプ活字、写植用文字盤、デジタルフォント（ビットマップフォント・アウトラインフォント）と様々な組版手段に対応し、その製品形態を変えてきました。しかし永年にわたる書体開発の歴史の中で、変わらないものが、「可読性の良さ」と「文字の美しさ」の追求です。

元々漢字も仮名も縦組用の文字であり、組版も長い間縦組が主流でした。そして多くの書体が、横組をあまり意識していないデザインであったため、横組が主流となり始めると大きな問題を抱えるようになりました。

・ 12 pt

日本語の組版や可読性を語る時に、縦組と横組に触れないわけにはいきません。

・ 14 pt

漢字と仮名の調和

・ 32 pt

あア愛永

ナ タ サ カ ア な た さ か あ
 ニ チ シ キ イ に た し き い
 ヌ ツ ス ク ウ に ち し く い
 ネ テ セ ケ エ ぬ つ す く え
 ノ ト ソ コ オ の と そ こ お

ABCDEFGHIJKLMNO
 PQRSTUVWXYZabcde
 fghijklmnopqrstuvwx
 yz0123456789.:,;(*!?)

・ 40 pt

可読性の良さは人に優しい

・ 16 pt

漢字は象形文字から発達した文字と、それらを用いて論理的に組み合わせた文字とに大別することができます。

・ 10 pt

モトヤ書体の開発は、1950年代から始まり現在に至っています。この間モトヤ書体は、鉛活字、タイプ活字、写植用文字盤、デジタルフォント（ビットマップフォント・アウトラインフォント）と様々な組版手段に対応し、その製品形態を変えてきました。しかし永年にわたる書体開発の歴史の中で、変わらないものが、「可読性の良さ」と「文字の美しさ」の追求です。

元々漢字も仮名も縦組用の文字であり、組版も長い間縦組が主流でした。そして多くの書体が、横組をあまり意識していないデザインであったため、横組が主流となり始めると大きな問題を抱えるようになりました。

・ 12 pt

日本語の組版や可読性を語る時に、縦組と横組に触れないわけにはいきません。

・ 14 pt

漢字と仮名の調和

・ 32 pt

あア愛永

ナ タ サ カ ア な た さ か あ
ニ チ シ キ イ に ち し き い
ヌ ツ ス ク ウ に ぬ つ す く う
ネ テ セ ケ エ ぬ て せ け え
ノ ト ソ コ オ の と そ こ お

ABCDEFGHIJKLMNO
PQRSTUVWXYZabcd
efghijklmnopqrstuvwx
yz0123456789.:;(*!?)

・ 40 pt

可読性の良さは人に優しい

・ 16 pt

漢字は象形文字から発達した文字と、それらを用いて論理的に組み合わせた文字とに大別することができます。

・ 10 pt

モトヤ書体の開発は、1950年代から始まり現在に至っています。この間モトヤ書体は、鉛活字、タイプ活字、写植用文字盤、デジタルフォント（ビットマップフォント・アウトラインフォント）と様々な組版手段に対応し、その製品形態を変えてきました。しかし永年にわたる書体開発の歴史の中で、変わらないものが、「可読性の良さ」と「文字の美しさ」の追求です。

元々漢字も仮名も縦組用の文字であり、組版も長い間縦組が主流でした。そして多くの書体が、横組をあまり意識していないデザインであったため、横組が主流となり始めると大きな問題を抱えるようになりました。

・ 12 pt

日本語の組版や可読性を語る時に、縦組と横組に触れないわけにはいきません。

・ 14 pt

漢字と仮名の調和

・ 32 pt